

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102055
法人名	特定非営利活動法人 夢のかけはし
事業所名	グループホーム とみのくに
所在地	奈良県奈良市中町3857 (電話)0742-49-1392
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(H20年 1月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤	9人, 常勤換算 4.725

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建て	2 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(800,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 2,300 円			

(4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大倭病院、東生駒病院、奥井医院、西野歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地の中に平屋建ての一棟と、併設のデイサービスの2階とに分かれて2ユニットのグループホームがある。2階には広いベランダがあり緊急用の赤いらせん状の滑り台が取り付けられており、平屋建ての方は広い居間があり、居室も明るく木目を使った落ち着いた作りになっている。管理者や職員は、入居者のペースに合わせた介護を心がけ、常に気配りや目配りがされている。創設者の地域に貢献したいの思いもあり、秋祭りを復活させ地域住民の憩いの場としても門戸を開いている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>表札を掛けるなどの工夫を指摘されたが、個人の名前を表示するわけではないので、表札を掛ける意義、意味を感じないとのことで取り組みはされていない。ホーム便りを月2回発行されていたが、今は休刊中とのことなので、四季報にするなど再発行を望みます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者やリーダーは評価の意義を理解されているが、評価内容を回覧することで、全職員が評価の内容を認識し、意義を理解することは難しいと思われる。評価の意義の理解と活用について話し合われることが望ましい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市担当者、地域包括支援センター職員、住民代表など個別の交流が出来ているので、調整をされ運営推進会議を立ち上げられることを望みます。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者、職員は家族の来訪時には話し易い雰囲気作りを心がけている。苦情や不安を聞いたときは、早く対処する体制を作っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に貢献したいの思いで秋祭りを復活させたり、地域行事に駐車場を提供するなど住民との連携がとれている。ボランティアや小学校の運動会に参加するなどの交流も図られている。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰もが安心して、その人らしく暮らしていける憩いの場の提供と、地域に貢献したいとの思いを込めた独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共用スペースやスタッフルームに掲示し、採用時には理念やそれに基づいたケアのあり方について話している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	衰退していた秋祭りを隣の神社と協力して、地域住民が大勢訪れる毎年の恒例行事として復活させ、地域行事開催の折の駐車場の提供や、散歩や遠足時のトイレの提供など事業所として交流を図っている。小学校の運動会に参加したり、併設のデイサービスに来られるボランティア活動に参加するなどの交流も図って		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者やリーダーには自己評価、外部評価の意義が理解されているが、全ての職員に浸透しているとは言えないところがあるように思われる。	○	勤労意識やスタンスの違いなどあると思われるが、評価の意義や活用について積極的に話し合いの場を設け、取り組みに活かされることを望みます
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議の開催に向けて準備中である。	○	市担当者、地域包括支援センター職員、住民代表などと個別の交流は持たれているので、日程調整など難しいこともあると思われるが運営推進会議の早い立ち上げを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは指導や調査を通して信頼関係ができており、併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーも交え話し合いがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には近況を報告し、電話での報告もされている。医師が出す居宅療養管理指導書や請求書を月1回送る時に、文書で知らせることもある。請求書には介護保険給付以外に個人的な購入品や医療費の領収書を添付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけ、苦情があった時には、速やかに対処し、解決できる体制を作っている。サービス内容説明書には公的窓口も記入されている。		公的相談機関は示されているが、電話番号も記入されることを望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ダメージを少なくするため、多数の職員がまんべんなく利用者に関わり、偏った関係を作らないようとの事業所独自の考えがあり、そのために十分な職員体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実務者研修、管理者研修などを受講している。ヘルパー2級養成研修を事業所内で行っており、職員は希望により受講できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、食事会や施設訪問を行い意見交換をしている。時には職員も同伴している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はしていないが、利用者と面接し、できるだけ利用者に施設見学に来てもらっている。職員は利用者の認知症のレベルに合わせた対応を常に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族に近い雰囲気作りを心がけている。お父さん役をされる方やお母さんと呼ぶと喜ばれる方がいる。妊娠中の職員を気遣ってくれる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを作成し、希望や意向を把握し、日々のケアのなかでも出来るだけ五感に働きかけるようなケアを行い、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	フェイスシートを基に計画作成担当者が利用者、家族、職員の意見を取り入れ、生活歴が活かせる介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね6ヶ月に1度の見直しを行なっている。日々のケア記録を週間記録に転記し、心身の状態を医師、職員が常に把握できる体制を作り、変化のある時には、医師、職員の意見を基に、家族にも同意を得て見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせ、デイサービスの機械浴を利用したり、介護タクシーを利用するなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診、歯科医による月1回の往診を実施し、これまでのかかりつけ医にも家族との連携により受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し、家族の意向を把握している。24時間対応可能な医療機関と連携体制が取れている。今のところ事業所で看取った利用者はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に合わせて言葉かけや対応を心がけている。個人記録などはスタッフルームに保管されている。職員採用には身元のはっきりした人を採用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や希望、表情など観察して、入浴日や入浴時間をずらせたり、食事時間をずらすなどの対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者が納入し、準備や片付けなど利用者の出来ることは一緒にしている。なかには他の利用者の世話をすることもありますが、何らかの食事介助が必要な方も多く、おしゃべりをしながら、さりげなく介助されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回、15時～17時30分と決まりはあるが、そのなかで利用者の状態に合わせて、柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブルを拭いたり、洗濯物を畳んだり、利用者同士でおしゃべりを楽しんだりしている。散歩や買い物、時には農園での収穫を楽しんでいる。玄関ホールでたばこを吸っている方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周りの環境が良いため、利用者の体調や天候に合わせて散歩をしている。入浴のない日を外出の日とし、ドライブや買い物、観光などに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵は掛けていない。センサーや鏡を利用して利用者の行動を常に見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防法に基づく訓練を事業所全体で行なっている。緊急時対応マニュアルを、台所、スタッフルームに掲示している。2階から避難用の滑り台が取り付けられているが、リスクが大きいいため訓練時に利用されたことはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者のシルバーメニューによりバラエティーに富んだ献立が用意され、食事量や水分摂取量は日々の記録に記入されている。日々の記録は食事室の壁に貼り、記入漏れの無いようにしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄器や加湿器を使って不快な匂いを消し、乾燥を防いでいる。強い日射しはカーテンや簾で防ぎ、居間には、お雛様が飾られ、ソファでくつろいでいる。食堂、トイレも明るく使いやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	作り付けのクローゼットがあり、大きな家具などの持ち込みは少ないが、テレビや写真、引き出しなどが持ち込まれている。ポータブルトイレが置いてある部屋もあり、花の名前の表札が掛けてある部屋もある。		